

試験焼却測定結果

	測定項目	測定値	基準値等	結果	
① 積込前	ア 二次仮置場の災害廃棄物の放射能濃度	26 Bq/kg	100Bq/kg を超えないこと	基準値以下	
	イ 二次仮置場の災害廃棄物の有害物質 (PCB、石綿等) 濃度 (有害物質9項目、石綿)	水銀又はその化合物 0.0009mg/L 鉛又はその化合物 0.1 mg/L その他の項目はND ※1 石綿 なし	廃棄物の溶出基準、含有基準等を満たすこと	基準値以下	
② 積込時	ア 二次仮置場の空間線量率 (4方位)	0.03~0.07 μ Sv/h (バックグラウンド 0.06 μ Sv/h)	バックグラウンド空間線量率の3倍を超えないこと	基準値以下	
	イ コンテナ積込時の災害廃棄物の遮蔽線量率	0.000~0.005 μ Sv/h	0.01 μ Sv/h を超えないこと	基準値以下	
	ウ コンテナ積込後のコンテナ周辺の空間線量率 (8台、左右側面)	0.05~0.06 μ Sv/h (バックグラウンド 0.06 μ Sv/h)	バックグラウンド空間線量率の3倍を超えないこと	基準値以下	
	エ コンテナ積込時の処理不適物混入	混入なし	可燃物以外が混入していないこと (目視)	問題なし	
③ 運搬時	ア JR貨物駅の敷地境界、コンテナ周辺の空間線量率 (敷地4方位、コンテナ8台左右側面)	敷地境界0.06~0.08 μ Sv/h コンテナ周辺0.07~0.08 μ Sv/h (バックグラウンド 0.07~0.09 μ Sv/h)	バックグラウンド空間線量率の3倍を超えないこと	基準値以下	
	イ 焼却施設到着時の災害廃棄物の遮蔽線量率	0.000~0.001 μ Sv/h	0.01 μ Sv/h を超えないこと	基準値以下	
④ 焼却時	ア 焼却施設の通常ごみの放射能濃度	ND (<10 Bq/kg) ※1	—	—	
	イ 焼却施設の敷地境界の空間線量率 (4方位)	試験焼却前	試験焼却後	バックグラウンド空間線量率の3倍を超えないこと	変化認められず
		0.05~0.08 μ Sv/h	0.04~0.08 μ Sv/h		
			(前後ともバックグラウンド 0.08 μ Sv/h)		
	ウ 災害廃棄物の運搬車両周辺の空間線量率 (8台、左右側面)	0.07~0.08 μ Sv/h (バックグラウンド 0.08~0.09 μ Sv/h)	バックグラウンド空間線量率の3倍を超えないこと	基準値以下	
	エ 焼却施設の排ガス、灰の放射能濃度	排ガス ND (<0.4 Bq/Nm ³) 焼却灰 ND (<10 Bq/kg) *1 飛灰 16~26 Bq/kg ※4 処理灰 14~22 Bq/kg ※4	排ガス: ※2 灰: 100Bq/kg を超えないこと	基準値以下	
	オ 焼却施設の周辺土壌の放射能濃度 (14箇所)	試験焼却前	試験焼却後	試験焼却前後で比較	変化認められず
		ND (<10 Bq/kg) ~25 Bq/kg ※4	ND (<10 Bq/kg) ~24 Bq/kg ※4		
カ 焼却施設の周辺地域の空間線量率 (14箇所)	試験焼却前	試験焼却後	試験焼却前後で比較	変化認められず	
	0.03 ~ 0.10 μ Sv/h	0.06 ~ 0.12 μ Sv/h			
キ 焼却施設の排ガス、灰のダイオキシン類濃度	排ガス 0~0.00069 ng-TEQ/Nm ³ 飛灰 0.52~2.7 ng-TEQ/g 処理灰 0.0046ng-TEQ/g ※5	ダイオキシン類対策特別措置法に基づく基準 排ガス 0.1ng-TEQ/Nm ³ 飛灰 — 処理灰 3ng-TEQ/g	基準値以下		

⑤ 埋立時	ア 最終処分場の敷地境界、 周辺地域の空間線量率 (敷地4方位、周辺2箇所)	試験焼却前	試験焼却後	試験焼却前後で比較	変化認められず
		敷地境界 0.08～0.10 $\mu\text{Sv/h}$ 周辺地域 0.09～0.10 $\mu\text{Sv/h}$	敷地境界 0.10～0.12 $\mu\text{Sv/h}$ 周辺地域 0.10～0.11 $\mu\text{Sv/h}$		
	イ 最終処分場の放流水 地下水の放射能濃度	放流水 ND (<1 Bq/L) ※1 地下水 ND (<1 Bq/L) ※1	放流水：※3 地下水：10 Bq/L以下		基準値以下

- ※1 ND (Not Detected) の表記は不検出 (検出下限値未満) の意味
 ※2 排ガス：Cs134 濃度 (Bq/ Nm³)/20+Cs137 濃度 (Bq/Nm³)/30 が 1 を超えないこと
 ※3 放流水：Cs134 濃度 (Bq/L)/60+Cs137 濃度 (Bq/L)/90 が 1 を超えないこと
 ※4 の放射性セシウム濃度についてはセシウム濃度は検出下限値未満もありましたが、検出下限値も加算し、最大推計値で算定しました
 ※5 処理灰は、飛灰を加熱脱塩処理によりダイオキシン類を分解し、さらに薬液処理により灰中の重金属類が溶け出さないようにしたもので、これを埋立処分しています。

単位 Bq/kg ベクレル/キログラム $\mu\text{Sv/h}$ マイクロシーベルト/時間
 Bq/L ベクレル/リットル ng-TEQ/Nm³ ナノグラム-毒性当量/ノルマル立法メートル
 ng-TEQ/g ナノグラム-毒性当量/グラム